



せつぶん こだいちゆうごく ぎょうじ にほん つた せつぶん げんざい はる おか
節分は、古代中国の行事が日本に伝わり、かたちを変えたものです。現在では、春を迎える
たいせつ ふしめ ぎょうじ ことし せつぶん がつみっか きゅうしょく いちにちはや がつふつか
大切な節目の行事になっています。今年の節分は2月3日ですが、給食では一日早い2月2日
せつぶんこんだて と い
に節分献立を取り入れました。

せつぶん せつが りっしゅん りっか りっしゅう りつとう ぜんじつ にほん
節分は「節変わり」ともいい、もともとは立春・立夏・立秋・立冬の前日をいいました。日本で
さむ ふゆ あたた はる りっしゅん ぜんじつ せつぶん とく だいじ ぎょうじ げんざい
は、寒い冬から暖かい春になる立春の前日の節分が特に大事にされ、行事とともに現在まで
つた
伝えられています。



「節分」と「豆まき」

まめ い だいず つか おお おに そと ふく うち
豆まきには、炒った大豆を使うことが多く、「鬼は外、福は内」
い だいず わる
と言いながら、大豆をまきます。これは、悪いことをもたらすとさ
おに お しあわ ふく よ こ かぞく
れる鬼を追いはらい、幸せの福を呼び込むためです。家族の
けんこう しあわ ねが こ
健康や幸せへの願いが込められています。

い だいず じぶん ねんれい かず
また、炒った大豆を、「自分の年齢の数」
ねんれい かず こ た
または「年齢の数+1個」食べると、
いちねんかん けんこう す
一年間を健康に過ごせるともいわれて
だいず か らっかせい つか
います。大豆の代わりに、落花生を使う
ちいき
地域もあります。



「節分」と「いわし」

まめ ほか あたま ひいらぎ えだ さ げんかん かざ
豆まきの他に、いわしの頭を 柎の枝に刺して、玄関に飾
ふうしゅう
る風習もあります。
これは、おに いえ い ふうしゅう
これは、鬼を家に入れないようにするための風習です。いわ
しは、や 焼くとにおいが強くなるため、や 焼いたいわしの あたま
頭のお
いで、おに ちか いて、鬼を近づけないようにするという意味があります。

あたま ひいらぎ えだ
そして、いわしの頭を 柎の枝に
さ ひいらぎ は
刺して、柎の葉のすどいとゲで
おに め さ おに お
鬼の目を刺し、鬼を追いはらいます。

